

# 医療安全管理部



医療安全管理部長  
高倉 賢二



医療安全管理副部長  
赤尾 昌治



医療安全管理係長  
右野 恵



専門職(訴訟)  
山崎 茂



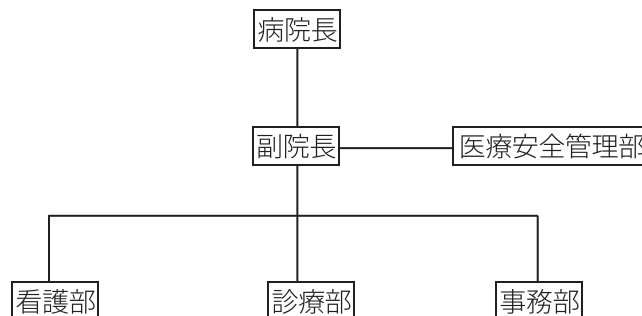
副看護師長  
黒川 久美子

医療安全は医療の本質にかかわる重要な課題である。病院理念の『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を実践する上で、安全な医療の提供は基本となるものであり、医療安全の必要性と重要性を、組織としてまた職員個人自身の課題として認識する必要がある。

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部、医療安全管理室を設置して医療安全管理体制を整備している。個々の事例に対応するだけでなく、医療安全のためのマニュアル(以下「マニュアル」という。)も作成している。また、インシデント・アクシデント事例及び医療事故の評価分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い医療安全管理の強化充実を図っている。

## 1. 医療安全組織図

1) 副院長直下に医療安全管理部を設ける。



2) 構成メンバー

医療安全管理部長 1名

医療安全管理副部長 1名

専門職(訴訟) 1名

医療安全管理係長 1名

医療安全推進担当者(リスクマネージャー)各部署から1名 計59名

## 2. 医療安全に関する日常活動

- 1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査(定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検)
- 2) マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
- 3) インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理

- 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
- 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
- 6) 医療安全に関する教育研修の企画・運営
- 7) 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
- 8) 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

### 3. 業務実績

#### 1) 医療事故に関する会議開催状況

- ① 拡大医療安全管理委員会 0件
- ② 医療事故本部対策会議 2件
- ③ オカーレンス事例検討会議 18件
- ④ ハイリスク診療検討会議 8件

#### 2) マニュアル、ガイドラインの作成

- ・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版(2014年改訂)
- ・中心静脈カテーテル運用マニュアル(2012年)
- ・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン(2012年)
- ・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備(2012年)
- ・ロヒピノール院内使用指針(2014年)

#### 3) インシデント・アクシデントレポート収集

・平成25年度報告件数

インシデント 3,522件

アクシデント 133件

・平成25年度職種別報告件数

看護部:3345件(91.6%)

医師:150件(4.0%)

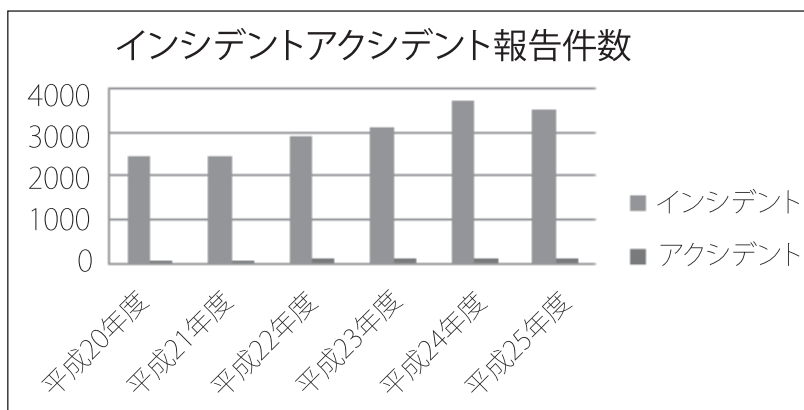


表1 職種別報告件数

看護部	3345
医師	150
薬剤	32
栄養	21
検査	49
放射線	29
リハビリ	16
臨床工学技士	5
事務	3
地域連携室	5
合計	3655

#### 4) 平成25年度緊急コール件数

ドクターハートコール:27件

METSコール(9月稼働):10件

ホワイトコードコール:8件

警察対応事例:10件

5) 医療安全に関する活動及び情報提供

- ・医療安全管理委員会 1回/月 計12回
- ・リスクマネージャー会議 1回/月 12回
- ・診療科長会議、医局会、管理診療会議での事例紹介(「本日の事例、本日の苦情」)
- ・医療安全管理室だより等 発行
- ・事件事例の情報発信

(個人情報保護、患者取り違え、誤薬、適時適温食事の安全について、針刺し事故予防等)

6) 医療安全に関する教育研修

麻薬について(麻薬の種類と管理方法):病棟薬剤師による出前講座 全病棟実施

安全上MRI検査の前に知っておくべきこと 62名

暴力にどう対応するか (講師:伏見警察署)

～自分自身を守るために護身術を身につけよう～ 141名

人工呼吸器関連研修会 76名

急変時の対応関連研修会 131名

7) 医療安全に関する講義

新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、看護補助者、スペシャルメディカルクラーク等